

安全データシート (SDS)

1 製品及び会社情報

製品の名称

製品名 32124897 TECH ビードシーラー

会社情報

会社名 株式会社 MonotaRO
所在地 〒660-0876 兵庫県尼崎市竹谷町 2-183 リベル 3 階
担当者名 商品お問合せ窓口
電話番号 0120-443-509
FAX 番号 0120-289-888
緊急連絡先 所在地と同じ
整理番号 M161219

推奨用途及び使用上の制限

タイヤシーラント剤

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分 2

健康に対する有害性

急性毒性（経口） 区分 4

呼吸器感作性 区分 1

特定標的臓器毒性（反復ばく露） 区分 2（中枢神経系、心臓血管系）

環境に対する有害性

分類できない

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気

飲み込むと有害

吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、心臓血管系の障害のおそれ

注意書き

[安全対策]

熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。
容器を密閉しておくこと。
容器を接地すること／アースをとること。
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
取扱後はよく手を洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
【換気が不十分な場合】呼吸用保護具を着用すること。

[応急措置]

飲み込んだ場合：気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。
口をすすぐこと。
呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。
火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。

[保管（貯蔵）]

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

[廃棄]

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。

他の危険有害性

情報なし

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

引火性の高い液体及び蒸気

飲み込むと有害

吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ

長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、心臓血管系の障害のおそれ

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS 番号	官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲 (wt%)
低沸点脂肪族ナフサ	64742-89-8	-	85.2
ゴムラテックス	9006-04-6	-	5.7

4 応急措置

ばく露経路による応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所へ移動させる。呼吸が無い、不規則、停止した場合は、訓練を受けた者が人工呼吸又は酸素の供給を行う。襟、ネクタイ、ベルト、ウエストバンドを緩める。直ちに医師の診断、手当を受けること。
皮膚に付着した場合	すぐに大量の水と石けんで 15 分以上洗うこと。汚染された衣類や靴は脱ぎ、再使用前に洗濯すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。
眼に入った場合	まぶたまで開いて水で 15～20 分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合	水で口をすすぐ。医師の指示なしに嘔吐させないこと。意識がない時は口から何も与えてはならない。直ちに医師の診断を受けること。

予想される急性症状

吸入した場合：呼吸器の刺激、咳
飲み込んだ場合：胃痛
皮膚に付着した場合：刺激、赤み
眼に入った場合：刺激、流涙、赤み

遅発性症状の最も重要な徴候症状

情報なし

応急措置をする者の保護

救助者は、状況に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。
口から口への人工呼吸は危険である。

医師に対する特別な注意事項

情報なし

5 火災時の措置

適切な消火剤

水噴霧、粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素を使用する。

使ってはならない消火剤

火災が周辺に広がる恐れがあるため、直接の棒状注水を避ける。

特有の危険有害性

火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。
火災や加熱した場合、圧力上昇が起こることで容器が破裂したり、爆発の危険性がある。
この製品の蒸気は空気より重く、地面に沿って広がる。
蒸気は低い場所、密閉空間に蓄積し、着火源へ近づくおそれがある。
下水道への流出は、火災や爆発の危険性がある。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。
延焼の恐れのないよう水スプレーで周囲のタンク、建物等の冷却をする。
消火活動は風上から行う。
火災場所の周辺には関係者以外の立ち入りを規制する。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
危険が伴う場合や、訓練を受けていない場合は、消火活動を行わないこと。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、適切な自給式の呼吸器用保護具、眼や皮膚を保護する防護服（耐熱性）を着用する。

6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。
作業者は適切な保護具（「8 ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
漏出物に触れたり上を歩いたりしない。
十分な換気を行うこと。

環境に対する注意事項

周辺環境に影響がある可能性があるため、製品の環境中への流出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

危険でなければ漏れを止める。
容器を漏出場所から移動する。
少量の場合、水溶性であれば水で薄めて拭き取る。非水溶性であれば不活性の乾燥した吸収剤で吸着させ、廃棄容器に回収する。
大量の場合、風上から作業する。廃水処理場で処理するか、不燃性の吸着剤（砂、土、バーミキュライト、珪藻土等）を用いて回収し、法規制に従って処分する。
火花を発生しない道具や防爆型の装置を用いること。
取扱いや保管場所の近傍での飲食の禁止。
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

「8 ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

安全取扱注意事項

十分な換気を行う。
眼や皮膚、衣類への接触を避ける。
蒸気やミストを吸入しないようにする。
製品を飲み込まない。
換気が不十分な場合は、呼吸器を着用する。
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。
容器を接地すること、アースをとること。
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
火花を発生させない工具を使用すること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙しないこと。
飲食エリアに入る前に汚染された衣類と保護具を脱ぐこと。
汚染された衣類を再使用する場合には洗濯すること。
空容器は再使用しないこと。
混触禁止物質
使用後や飲食、喫煙の前に手と顔を洗うこと。

接触回避
衛生対策

保管

技術的対策

保管場所には危険・有害物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な照明及び換気の設備を設ける。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

混触禁止物質

酸化剤

保管条件

直射日光を避け、乾燥した冷暗所に保管する。高温物を近づけない。飲食物を避ける。

容器包装材料

破損や漏れの無い密閉可能な容器を使用する。
開封済みの容器は漏れないように再封し、まっすぐに保管する。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度

設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標）

ACGIH TLV-TWA (2016)

0.0001 mg/m³（天然ゴムラテックス）

日本産業衛生学会

設定されていない。

設備対策

取り扱いの場所の近くに、洗眼および身体洗浄剤のための設備を設ける。
防爆型の換気装置を使用する。狭い範囲で使用する際は、局所換気装置を使用する。

保護具

呼吸用保護具

必要に応じて保護マスクや呼吸用保護具を着用する。

手の保護具

手に接触する恐れがある場合、不浸透性の保護手袋を着

眼の保護具	用する。 眼に入る恐れがある場合、保護眼鏡やゴーグルを着用する。
皮膚及び身体の保護具	必要に応じて保護衣、保護エプロン等を着用する。

9 物理的及び化学的性質

外観（物理化学的状態、形状、色など）	黒色の液体（粘性液体）
臭い	溶剤臭
臭いの閾値	情報なし
pH	情報なし
融点・凝固点	情報なし
沸点、初留点及び沸騰範囲	98.3～110℃
引火点	-7℃（密閉式）
蒸発速度	> 1（酢酸ブチル＝1）
燃焼性	情報なし
燃焼範囲の上限・下限	上限：8%、下限：1.3%
蒸気圧	14.7 kPa (110.5 mmHg) (20℃)
蒸気密度	> 1（空気＝1）
比重	0.76
溶解度	情報なし
n-オクタノール／水分配係数	情報なし
自然発火温度	情報なし
分解温度	情報なし
粘度	情報なし
揮発性	89.1% (v/v)、89.1% (w/w)

10 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性	通常の手扱い条件下では安定である。
危険有害反応可能性	通常の手扱い条件下では危険有害反応を起こさない。
避けるべき条件	着火源となるものを避ける。 加圧、切断、溶接、蝋づけ、はんだ、穴あけ、粉碎はしない。容器を熱源や着火源に近づけない。 蒸気が低い場所や密閉区域に蓄積しないようにする。
混触危険物質	高反応性物質、酸化剤等
危険有害な分解生成物	火災等の場合は、毒性の強い分解生成物が発生する可能性がある。

11 有害性情報

製品の有害性情報

急性毒性（経口）	飲み込むと有害
呼吸器感作性又は皮膚感作性	吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経系、心臓血管系の障害のおそれ

成分の有害性情報

低沸点脂肪族ナフサ

急性毒性（経口）

ラット LD₅₀=2,000 mg/kg

12 環境影響情報

製品の環境影響情報

生態毒性	情報なし
残留性・分解性	情報なし
生体蓄積性	情報なし
土壌中の移動性	情報なし
オゾン層への有害性	該当しない

13 廃棄上の注意

残余廃棄物

残余廃棄物を下水道に流さない。

廃棄においては、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、または地方公共団体が廃棄物処理を行っている場合はそこに委託して処理する。

汚染容器及び包装

容器は洗浄してリサイクルするか、関連法規制ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。リサイクルできない場合は、焼却処分又は埋め立て処分をすること。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

残余物から発生した蒸気は、非常に高い引火性を示し、容器内で爆発するおそれがある。

容器内をきれいにする前に切断、溶接、粉碎をしないこと。

14 輸送上の注意

国際規制

陸上輸送（ADR/RID の規定に従う）

国連番号	1133
品名	接着剤、引火性液体を含有するもの
国連分類	3
副次危険性	-
容器等級	II

海上輸送（IMO の規定に従う）

国連番号	1133
品名	接着剤、引火性液体を含有するもの
国連分類	3
副次危険性	-
容器等級	II
海洋汚染物質	該当しない
IBC コード	該当しない

航空輸送（ICAO/IATA の規定に従う）

国連番号	1133
品名	接着剤、引火性液体を含有するもの
国連分類	3
副次危険性	-
容器等級	II

国内規制

陸上規制情報	消防法、道路法に従う
海上規制情報	船舶安全法に従う
海洋汚染物質	該当しない
航空規制情報	航空法に従う

緊急時応急措置指針（容器イエローカード）番号

128

特別の安全対策：

輸送に際しては、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

15 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（石油ナフサ）（1重量%以上を含有する製剤その他の物） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（石油ナフサ）（1重量%以上を含有する製剤その他の物） 第3種有機溶剤等（石油ナフサ）（有機溶剤を5重量%を超えて含有するもの）
消防法	第4類引火性液体、第一石油類非水溶性液体
大気汚染防止法	揮発性有機化合物 排気
海洋汚染防止法	有害液体物質（Y類物質）（コールタールナフサソルベント）
航空法	引火性液体
船舶安全法	引火性液体類
港則法	その他の危険物・引火性液体類
道路法	車両の通行の制限

16 その他の情報

参考文献

株式会社 MonotaRO 提供資料

ACGIH, American Conference of Governmental Industrial Hygienists (2016) TLVs and BEIs.

【注意】本 SDS は、JIS Z 7253:2012 に準拠し、作成時における入手可能な製品情報、有害性情報に基づいて作成していますが、必ずしも十分ではない可能性がありますので、取扱いにはご注意下さい。本 SDS の記載内容については、新しい知見等がある場合には必要に応じて変更してください。また、注意事項等は通常の取扱いを対象としたものですので、特別な取扱いをする場合には用途・条件に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。